

## 三觜八郎右衛門家について

### (1) 三觜家と耕余塾

室町前期 創設 先代当主・博氏(故人)が16代目。  
代々八郎右衛門を襲名。

江戸時代 羽鳥村の名主を務め、「大三觜」と称される。  
明治期には醤油醸造も手掛ける。

明治5年(1872) 13代八郎右衛門(佐次郎)が小笠原東陽を招いて「読書院」を開く。

明治11年(1878) 新塾舎完成と同時に「耕余塾」と改名。  
変則中学として運営。

明治27年(1894) 吉田茂、耕余塾を出る。

明治33年(1900) 閉塾

### (2) 建物の年代

明治11年(1878) 母屋 祈祷札銘。このころ完成か(?)  
13代佐次郎が、先にあった元和年間(1615-1624)  
創建の建物を建て替える。用材の準備を3代前から  
始めたと伝えられる。

大正8年(1919) 15代の嫁取りに当たり、土蔵脇に若夫婦の住まいを改造。

大正12年(1923) 関東大震災。数編の被害は大きかったが、屋根瓦と雨戸が落ちる程度の被害のみ。

昭和10年(1935)頃 後方に食堂を増築。2階全面を出格子風に改造。

平成20年(2008) 内部を一部修築。

平成25年(2013) 主屋・門・塀が国有形文化財に登録される。